

漁業・漁村体験の回想効果

主任研究員 尾中謙治

1 調査の概要

漁業・漁村体験に参加した高校生が、その体験を回想することによって心理的な変化が生じるのかを調査した。

調査対象は、2024年7月21日(日)から7月23日(火)と7月28日(日)から7月30日(火)の2回実施された2泊3日の三重県熊野市二木島町での漁業・漁村体験を主とするスタディツアーに参加した都内の高校生14名であった(注)。対象の生徒は、体験から約8か月が経過した2025年2月19日(水)に、総合的な探究の時間として教室に集められ、授業開始の13時30分(回想前)と14時00分(回想後)に質問紙の検査が実施された(回答時間は約10分)。質問紙検査の間の20分(13時40分～14時00分)は、3～4名のグループをつくって二木島での体験の振り返りを行った。

検査にあたっては、IKR評定用紙(簡易版)と日本版POMS®2の「青少年用 全項目版」を使用した。調査は、調査趣旨を学校教員に説明し、教員が生徒に説明した後に生徒の同意を得たうえで実施された。統計処理には、Wilcoxonの符号付き順位和検定を用いた。

2 IKR評定用紙(簡易版)の結果

IKR評定用紙(簡易版)は、「生きる力」を測定するもので、それを構成する能力は「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の3つであり、各能力は下位能力で構成されている。スタディツアーの回想前と回想後の平均点の変化は第1表に記した。

「生きる力」の平均得点は、回想前の123.4点から回想後には126.2点へと向上したが、有意差は認められなかった($p=.367$)。

「心理的社会的能力」は回想前61.2から回想

後63.4へと向上し、有意傾向がみられた($p=.092$)。漁業・漁村体験を回想することで、当時のポジティブな経験が思い出され、自己評価が高まったと推察される。特に、「明朗性」は回想前8.9から回想後9.9へと増加し、統計的に有意な向上が認められた($p=.014$)。漁業・漁村体験の回想が当時の思い出を呼び起こし、積極的な気持ちを強化したと考えられる。しかし、グループによる振り返り行為自体が影響している可能性があることに留意する必要がある。

「徳育的能力」はほとんど変化しなかった。しかし、「自然への関心」の上昇には有意傾向がみられた。漁業・漁村体験の回想によって、自然との関わりに対する意識が喚起されたと推察される。

第1表 「生きる力」の平均得点の回想前後の変化

($n=14$)

能力	回想前	回想後	p 値
生きる力	123.4	126.2	.367 n.s.
心理的社会的能力	61.2	63.4	.092 †
非依存	8.9	9.4	.343 n.s.
積極性	8.9	9.4	.386 n.s.
明朗性	8.9	9.9	.014 *
交友・協調	7.7	7.4	.286 n.s.
現実肯定	9.0	8.9	.889 n.s.
視野・判断	8.2	8.7	.107 n.s.
適応行動	9.5	9.6	.689 n.s.
徳育的能力	37.6	37.9	.906 n.s.
自己規制	7.9	8.1	.612 n.s.
自然への関心	10.6	11.1	.093 †
まじめ勤勉	9.8	9.2	.168 n.s.
思いやり	9.4	9.4	.894 n.s.
身体的能力	24.6	24.9	.476 n.s.
日常的行動力	7.4	7.8	.173 n.s.
身体的耐性	8.2	8.3	.800 n.s.
野外技能・生活	9.0	8.9	.834 n.s.

* $p<.05$ 、† $p<.1$ 、n.s. 有意差なし

「身体的能力」もほとんど変化せず、下位能力の「日常的行動力」「身体的耐性」「野外技能・生活」にも有意な変化はみられなかった。身体的能力は回想では再認識されることが少なかったためと考えられる。身体的能力の向上は、体験直後や継続的な活動で実感できるもので、回想するだけでは変化が期待しにくいと考えられる。

3 POMS®2の結果

POMS®2とは気分状態を評価する質問紙である。回想前と回想後の平均点の変化は第1図に記した。

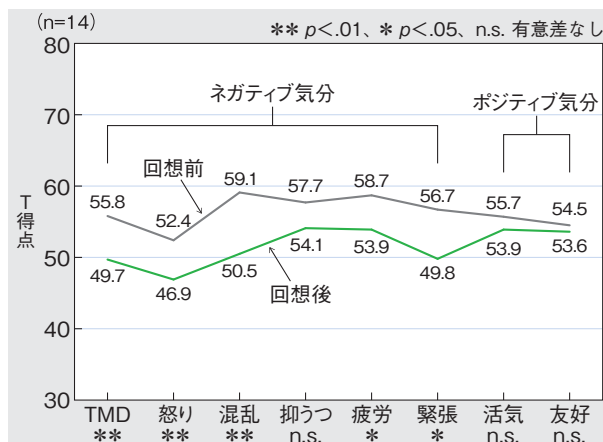
TMD(ネガティブな感情全般)は、回想前の55.8から回想後の49.7へと有意に減少した。特に「怒り」や「混乱」の低下が顕著であり、回想によってネガティブな気分が和らぐ可能性があることがわかった。一方で、「活気」や「友好」というポジティブな気分は回想後に低下し、回想がポジティブな気分を高める効果は統計的に確認できなかった。

これらの結果は、漁業・漁村体験の回想がポジティブな気分を高めるわけではなく、むしろネガティブな気分やストレスの緩和に寄与することを示唆している。

4 回想効果

今回の調査のサンプルサイズ(n=14)は小さいという課題はあるものの、漁業・漁村体験の回想は、「生きる力」やPOMS®2による気分評価の面から、生徒に対して多角的な効果をもたらすと考えられる。まず、「生きる力」では、回想後に全体的な向上がみられる傾向があり、特に「明朗性」の向上が顕著であったことから、前向きな思考を促す効果が示唆

第1図 POMS®2の平均得点の回想前後の変化



された。「失敗しても、立ち直るのがはやい」が「明朗性」の質問項目のひとつであり、二木島での体験を回想することによって、将来の学業や社会生活において積極的な姿勢で挑戦できる可能性が高まる。

また、POMS®2の結果では、ネガティブな気分(TMD、怒り、混乱、疲労、緊張)が回想後に有意に低下しており、ストレス軽減に寄与したといえる。漁業・漁村体験の回想が「心理的解毒剤」として機能している。生徒は回想を通じて日常生活でのストレスや不安を効果的にコントロールでき、精神的な安定を保ちやすいと考えられる。

漁業・漁村体験は、生徒に学びを提供するだけでなく、生徒の社会適応力や自己成長、ストレス耐性の向上に貢献する可能性が高い。そして、その効果の向上や持続において回想が有効であると考えられる。

<参考文献>

- ・尾中謙治(2025)「漁業・漁村体験が高校生に与える教育的効果および心理的影響—三重県二木島スタディーツアーに参加した高校生を対象として—」『農林金融』6月号

(おなか けんじ)

(注) 調査した漁業・漁村体験の内容や参加した高校生の参加前と後の変化については尾中(2025)を参照。